

公益財団法人 日本城郭協会 2019年度事業報告書

2020年3月31日

1、「城郭文化振興に寄与した個人及び団体を顕彰する事業」を創設

当協会は城郭文化のさらなる振興のための事業として、2019年度に城郭文化振興に寄与した個人・団体を顕彰する制度を創設するため、手続きを含めて準備作業を進めてきたが、2020年1月 公益認定等委員会から正式に新規事業として承認された。

事業内容としては 顕彰の個人部門として城郭研究に取り組んでいる若手研究者の論文を審査対象とし顕彰する。また団体部門では城郭の保存や発掘や振興に評価の高い団体（城）を表彰する。

なお2019年10月の第4回理事会で顕彰事業審査委員会規定を制定、

11月の第2回評議員会で定款4条を改訂、新たに7項に「城郭文化振興に寄与した個人及び団体を顕彰する事業」を加えることを承認した。

2「会員倍增計画—会員増強への取り組み強化と会員へのサービス強化—」

協会の事業や活動を支えてくれる会員の増強は協会の運営の基本活動である。

2019年度は会員がメリットを感じるサービスや事業を強化するとともに会

員加入へのPRを積極的に展開するなど会員倍増を目指して取り組んだ。しかし、新会員は前年比25%増にとどまり目標は達成出来なかった。

新会員獲得に欠かせない会員へのサービスの強化の一環として、会報及びホームページ（HP）の一層の充実を図った。具体的には 会報では会員からの寄稿欄を拡充、さらに城郭情報収集のための広報協力員を増やした。

またHPはデザインを一新して見やすく、利用しやすくしたことから、協会へのアクセスも急増した。

さらに 2019 年度は当協会の公認サイト「城びと」と連携してHP情報の多角化を進めた。

会員サービス強化として2020年3月に開催予定の「小机城（神奈川県）会員交流会」は新型コロナ防止のため中止した。

3、「日本100名城スタンプラリー」・「続日本100名城スタンプラリー」の運営およびPR強化

平成29年4月にスタートした「続日本100名城スタンプラリー」は「日本100名城スタンプラリー」と相まって多くのお城ファンに支持され参加者もますます増えている。協会はこれまで参加者の要望をスタンプラリーの運営に反映してきたが、2019年度も参加者にとって親切な運営を心掛け、城郭管理者と協力してスタンプ設置場所やスタンプの状態改善などに努めた。

また「100名城スタンプラリー」自体を知らないお城ファンもまだ多いことから協会監修のテレビ番組などで「スタンプラリー」のPRに努めた。

ただ2月から新型コロナ拡大防止のため、各城の「スタンプ」置き場の閉鎖が相次ぎ、3月末時点では「日本100名城・続日本100名城」で登城禁止も含めると約100城に上った。当協会も公式HPを通じてスタンプラリー自粛を呼びかけた。

4、「お城EXPO・2019」の開催

年末恒例の事業として定着した「お城EXPO」は、2019年度も「お城EXPO・2019」として12月21日、22日の二日間、横浜パシフィコで開催した。今回は初めて前夜祭（20日）を開催し、城郭ファンから評価された。初日の21日の入場者数は9138人で1日の入場者数としては過去最高を記録した。会場内では10月に焼失した首里城の写真展を開催、入場者から寄せられた首里城復興への寄付金15万4千円は2020年1月沖縄県東京事務所に届けた。

5、「親子名城見学会」「城の自由研究コンテスト」の継続・強化

当協会の重点事業である「親子名城見学会」「城の自由研究コンテスト」は2019年度はそれぞれ第18回目の開催であった。

「親子名城見学会」は7月、8月に全国5城で開催の予定であったが、台風の影響で「駿府城」、参加者が催行人数に足りないため「高島城」をそれぞ

れ中止、「江戸城、高知城、明石城」の3城で開催した。

「城の自由研究コンテスト」は応募作品数の増加を目指し重点県の学校への

PRを強化したが、あまり効果はなく応募数は310点にとどまった。

10月の予備審査、11月の最終審査を経て21点が優秀作品に選ばれた。

最優秀の文部科学大臣賞をはじめ各賞の表彰式は2020年1月13日

東京・私学会館で開催した。

6、「日本城郭検定」及び「EXPO 検定」の強化・充実

日本城郭検定は2019年度も6月・11月の2回開催した。11月は

受験者の便宜を図るため福岡に新たに試験会場を設けるなど、全国5か所

で開催した。

7、日本城郭協会・花王との共同活動「城のトイレ環境整備活動」の推進

当協会は2018年「花王グループ・カスタマーズマーケティング」と共に

「お城のトイレ環境整備活動」をスタートさせたが、2019年度は各城との

調整が不調で実施できなかった。

8、「熊本城復興義援金などの熊本城復興支援事業を継続」

2016年度に新設した熊本城復興支援のための「熊本城復興義援金」は

2019年度も様々な場面で幅広く寄付金を募った結果、合計35万763

4円を「熊本城災害復旧支援金」に寄付した。

9、「城郭セミナー及び城郭イベントの開催」

お城への社会的関心を広げる活動として各県・各市の生涯学習センターの城郭講座や城郭セミナーの開催に協力した。

10、「学術委員会の活動強化及び学術委員の拡充」

学術委員会の活動強化の一環としてお城E X P Oの講演及びセミナーの企画にも積極的に参画した。また「日本城郭検定」の問題作成を主導し、検定問題の充実を図った。さらに当協会の公認サイト「城びと」へ協力を強化した。

11、「ヨーロッパ100名城の調査・研究会」

「ヨーロッパ100名城」の社会的認知度を高めるための調査研究の旅行企画を旅行会社及びイギリス・ウェールズ政府と提携して実施を推進したが、催行人数に達せず実現できなかった。

12、「テレビ・新聞・出版物への監修・助言の体制強化」

テレビ・新聞などマスコミの城郭に関する問い合わせには、学術委員と協力して事務局全体で対応した。特に在京テレビ局の「城郭番組」「城郭情報コーナー」の監修要請に応えたほか、協会役員の出演を含めて積極的に協力した。協力した番組は1年間で12番組に上った。